

# 石森地域づくり行動計画書

～創ろう 暮らしやすい にぎわいのある いしのもり～

・・・ 日本で一番住みたい地域をめざして ・・・



(石森ふれあいセンター前の住民バス)



(秋田県湯沢市岩崎地区の視察研修)



(かぶの公園の浮石)



(石森ふれあい運動会)

2015年(平成27年)3月

石森コミュニティ運営協議会

# ＝ 目 次 ＝

## ◎ はじめに

～ 石森地域づくり行動計画に取り組んで ～

石森地域づくり計画委員会 会長 熊谷 慧 …… 1

## 第1章 石森地区の現状と課題

- 1 計画の策定の目的と期間 …… 2
  - (1) 地域づくり計画策定の背景と目的
  - (2) 地域づくり計画策定の期間
  - (3) 計画策定の体制
- 2 石森地区の現状 …… 3
  - (1) 位 置
  - (2) 沿 革
  - (3) 人口・世帯数、児童・独居老人の推移等 …… 4
- 3 石森地区の課題 …… 7  
(アンケートの結果から課題・問題点137件、ワークショップでの課題など)

## 第2章 地域づくり計画策定に係る活動経過並びに方向性

- 1 活動の経過 …… 9
- 2 地域づくりの方向性 …… 11  
(キャッチフレーズ)  
～創ろう 暮らしやすい にぎわいのある いしのもり～  
(サブタイトル)  
・ ・ ・ ・ ・ 日本で一番住みたい地域をめざして ・ ・ ・

## 第3章 石森地域づくり行動計画（地域づくりの施策） …… 12

## 第4章 石森地域づくり行動計画の推進（今後の取り組み）

- 1 推進体制の構築 …… 13
- 2 推進体制のイメージ図 …… 14

## ◎ おわりに …… 15

～ 石森地域づくり行動計画に携わって ～

行動計画一覧表（A3版）

## ◎ はじめに

### ～ 地域づくり計画に取り組んで ～



今、私たちを取りまく社会環境は、少子高齢化、人口の減少などが加速し、社会が著しく変化を遂げています。これらの課題に対応していくことが重要となってきています。

これからは、市民と行政が一体となって「協働（総働）のまちづくり」が必要となってまいりました。

平成25年度において、登米市では「地域づくり計画策定支援交付金制度」を新設し、各地区でこの制度の活用、実施が望まれることになりました。

石森地区では、石森コミュニティ運営協議会が主体となって、「石森地域づくり計画委員会」（委員48人）を立ち上げ、「地域の課題を掘り起し、その解決策を行動計画として取りまとめる」こととし、「創ろう、暮らしやすい、にぎわいのある、いしのもり」をキャッチフレーズとした行動計画を作り上げました。

これからは「石森地域づくり実践プロジェクト」に移行し、「自分たちの地域は自分たちでつくり、自分たちが守る」をモットーとして「画餅に帰す」ことのないように、皆さんと共に頑張っていく覚悟です。

これまで、計画作りにご協力いただいた委員の方々、支援チームの皆さん、アドバイザーの足立先生に心より感謝を申し上げ、石森地域づくり行動計画の策定作業を終えての挨拶といたします。

平成27年 3月

石森地域づくり計画委員会 会長 熊谷 慧

## 1 計画の策定の目的と期間

### (1) 地域づくり計画策定の背景と目的

平成17年3月1日、石森コミュニティ運営協議会（昭和60年3月30日設立）が、地方自治法の指定管理者制度に基づき、「石森ふれあいセンター」の自主管理・自主運営を開始してから10年、9つの町の合併により「登米市」ができて10年、節目の年を迎えました。

これまでも、石森コミュニティを基本とした、事業企画や地域活動を行ってまいりましたが、「地域のことは地域で考え、地域自らの責任によって決める」という考え方を基本とする「登米市まちづくり基本条例」が平成24年に制定されたことを契機に、もう一度、コミュニティ運営のあり方を見つめ直そう、原点に立ち返ってみようとの機運が醸成されつつありました。

特に、人口増加が進む加賀野地区と、少子・高齢化が進む石森地区において、様々な課題や、共通する課題を抱えており、その柳卸しをしながら、「石森で、できることは何なのか」、課題解決に向けて石森全体を、「より居心地のよい、住みやすい地域にすることをめざそう」と、今回、「石森地域づくり行動計画」の策定に取り組むことになったものです。

### (2) 地域づくり計画策定の期間

石森地域づくり行動計画の策定は平成26年度です。

この計画期間は、平成27年度を初年度として、平成31年度までの5年間で実施する行動計画として、地域づくりの実現に向け具体的な取り組みを行っていきます。

### (3) 計画策定の体制

石森地域づくり行動計画は、「石森地域づくり計画委員会」（各行政区長20人）、並びに「作業部会」（行政区長、各行政区選出委員の45人）が中心となって策定しました。

## 2 石森地区の現状

### (1) 位 置

石森地区は、宮城県の北東部、登米市のほぼ中央から上方に位置し、北は、岩手県一関市花泉町に、夏川を挟み石越町に、西は、迫川が流れる迫町に、南も、迫町に、東は、中田町宝江、そして北上川が流れる中田町浅水、中田町上沼に接しています。また、地形は、南北に長く、約8km、東西に約4.5kmのほぼ平坦肥沃な耕土を形成。宮城米「ササニシキ」「ひとめぼれ」の主産地として県内有数の穀倉地帯の一角を占めています。なお、石森の総面積は、17.23㎢で、登米市全体の3.2%を占めています。



### (2) 沿革

白地行政区内の「白地横穴墓群」の発掘から、おおよそ8世紀の奈良時代のものと思われる遺跡が確認されましたが、その年代には、すでに石森の集落が形成されていたものと推測されます。

藩政時代には、城下町として栄えた密居集落が石森地内にあり、笠原城跡及び外濠などの旧跡により往時を偲ばせます。

明治22年町村制の施行によって石森村と加賀野村を合わせて石森村になり、明治45年の町制施行により石森町となりました。

昭和31年4月1日、中田沼水系町村として絆の固い石森町、宝江村、上沼村及び浅水村の4ヶ町村の合併が成立し、中田町として発足しました。

平成17年4月1日、登米郡8町と津山町の9町が合併して、「登米市」が誕生し、現在に至っています。

### (3) 人口・世帯数、児童・独居老人の推移等

石森地区の人口の推移は、昭和40年6月、176人、昭和50年5月、351人で、それ以降は微減傾向にありましたが、平成10年9月の加賀野土地区画整理事業の完了に伴い、人口増加に転じ、平成18年9月には、6,597人、8年後の平成25年3月では、6,611人となり、なお増加中です。

さらに、平成23年の東日本大震災後、被災地の南三陸町等からの転入者が、主に加賀野地区において増えています。

平成27年2月1日現在の南三陸町からの転入者は、加賀野小学区、石森小学区を合わせて、73世帯、216人となっています。

人口増加の特に高い行政区は、加賀野地区内の加賀野一区、加賀野二区、南加賀野区、茶畑区の、いずれも土地区画整理地内の行政区です。

反対に、人口減少が高かった行政区は、石森の仲町区、長根区です。

また、人口構成比では、石森が44.3%、加賀野が55.7%の割合となっています。

石森小学校・加賀野小学校の児童数の推移では、平成17年度、石森小184人(うち入学児童33人)、加賀野小245人(うち入学児童44人)でありましたが、10年後の平成26年度は、石森小129人(うち入学児童14人)、加賀野小308人(うち入学児童56人)となりました。

石森地区全体の児童数は、この10年間、440人前後で推移しており、増減の変動幅が少ないのですが、石森小と加賀野小との児童数割合が、4対6から、3対7に変化しています。

#### 世帯数及び人口の推移

(老人ホーム、外国人除く)

行政区	平成18年3月		平成25年3月			
	世帯数	人口	世帯数	比較	人口	比較
蓬田	76	200	78	0	271	71
塚元	64	236	69	5	297	61
駒栗	48	190	52	4	165	-25
木町畑中	189	672	189	0	647	-25
仲町	105	329	100	-5	273	-56
菅町	92	310	96	4	307	-3
塚内	115	400	119	4	378	-22
庄池	45	185	44	-1	154	-31
ニツ木	58	231	61	3	222	-9
桑比	55	262	53	-2	230	-32
長根	80	352	70	-10	293	-59
相谷	43	116	47	4	163	47
牛畑	124	452	151	27	517	65
加賀野一	157	531	245	88	701	170
茶畑	80	283	87	7	272	-11
表	105	374	123	18	360	-14
加賀野二	118	377	148	30	492	115
南加賀野	160	505	183	23	542	37
山町	51	177	45	-6	145	-32
新橋	81	276	78	-3	233	-43
石森合計	1,844	6,597	2,012	168	6,611	14
中田町合計	4,563	18,804	4,741	178	15,960	-2,844
豊栄市合計	25,712	90,006	26,290	578	84,045	-5,961

#### 南三陸町からの転入者

(平成27年2月1日現在)

行政区	石森コミュニティ			
	加賀野小学区		石森小学区	
	世帯	人数	世帯	人数
蓬田			5	18
塚内			2	3
駒栗	1	1		
木町畑中	4	10		
茶畑	5	15		
加賀野一	20	55		
表	4	7		
加賀野二	19	53		
南加賀野	13	44		
合計	73世帯		216人	

#### 石森小・加賀野小の児童数の推移

( )内は入学児童

年度	石森小	加賀野小	合計
平成17	184人 (33人)	245人 (44人)	429人 (77人)
18	185 (24)	243 (44)	428人 (68人)
19	180 (31)	273 (63)	453人 (94人)
20	185 (28)	288 (53)	473人 (81人)
21	176 (24)	294 (55)	470人 (79人)
22	164 (25)	287 (36)	451人 (61人)
23	156 (27)	307 (55)	463人 (82人)
24	156 (22)	303 (37)	459人 (59人)
25	145 (22)	303 (64)	448人 (86人)
26	129 (14)	308 (56)	437人 (70人)

一方、中田町では、この8年間で、844人減の15,960人(中田町に占める石森の人口占有率は41.4%)、登米市全体では、5,961人減の84,045人(登米市に占める石森の人口占有率は7.9%)となっています。

H25年3月	世帯	人口
石森	864戸	2,931人
加賀野	1,128戸	3,680人
<b>石森全体合計</b>	<b>2,012戸</b>	<b>6,611人</b>

H25年3月	世帯	人口
石森地区	2,012戸	6,611人
中田町 (石森の占有率)	4,741戸 (42.4%)	15,960人 (41.4%)
登米市 (石森の占有率)	26,299戸 (7.7%)	84,045人 (7.9%)

### 【石森地区】世帯数と男女別人口

平成26年8月14日現在

行政区名	世帯数	男	女	計
蓮田	89	136	153	289
野元	69	104	111	215
駒巻	60	88	85	171
本町畑中	194	328	335	663
中町	101	132	133	265
新町	97	147	159	306
城内	116	157	202	359
白地	44	78	80	156
ニッ木	59	104	103	207
桑代	52	109	108	217
長根	61	154	148	302
細谷	51	81	78	159
茶畑	159	262	275	537
加賀野一	229	374	366	740
奥尾	88	118	143	259
森	148	201	210	411
加賀野二	161	262	285	547
両加賀野	192	271	269	560
南町	45	69	74	143
新橋	79	110	120	230
	<b>2,110</b>	<b>3,279</b>	<b>3,457</b>	<b>6,736</b>

また、中田町における少子・高齢化の状況をみると、平成18年の0歳～19歳までの人口(中田町全体に占める割合)は、3,239人(19.4%)でありましたが、8年後の平成25年には、2,865人(17.9%)と、全体で374人(1.5%)の減になりました。

石森地区の独居老人(65歳以上の1人世帯)は、平成17年度は、66人でありましたが、毎年増え続け、平成25年度には104人(全世帯の5.2%)となりました。

### 【中田町】幼若年及び老年の人口の推移

(単位:人)

	H18.3.31	H25.3.31	増減
0～4歳	693	618	-75
5～9	816	698	-118
10～14	797	826	29
15～19	933	725	-208
計	3,239 (19.4%)	2,865 (17.9%)	-374
65～69	875	879	4
70～74	1,077	757	-320
75～79	1,134	891	-243
80～84	767	891	124
85～89	371	629	258
90～99	181	36	-145
100～	8	8	0
計	4,461 (26.5%)	4,302 (26.9%)	-159

中田町全体に占める割合(0～19歳)

中田町全体に占める割合(65歳以上)

登米市市民区「年齢別人口集計」より

中田町全体に占める65歳以上の人口は、平成18年の4,461人(26.5%)でありましたが、平成25年には、4,302人(26.9%)と、8年間で0.4%の増となりました。しかしながら、登米市全体の28.3%よりも、1.4%低くなっています。ちなみに、登米市内の町と、石森の人口とで比較した場合、同程度の人口規模が豊里町で、石森地区より人口の少なかった町が、石越町、登米町、津山町でありました。

石森地区の世帯数の推移では、昭和40年1,165戸、昭和50年1,200戸で、それ以降は微増傾向にあったものの、平成10年の加賀野土地地区画整理事業の完了を契機に、住宅の新築や転入が増加し、平成18年3月には、1,844戸、8年後の平成25年3月では、2,012戸となり、なお増加中です。

また、現在、三陸縦貫自動車道登米ICに接続する、みやぎ県北高速幹線道路の中田工区に係る工事(石森・加賀野地区の西南側、迫町との隣接付近)が着手されており、平成29年度の工事完了後には、新たな交流人口の増加が期待されます。

参考までに、今、ベストセラーになっている「地方消滅」(増田寛也編著、中公新書発行)では、30年後の2040年、登米市の将来推計人口は、総人口が、5万人を切り49,948人となり、若年女性(20~30歳)が半減するとの試算結果を紹介しています。本書のP204では、「人口減少社会は確実にやってくる。しかし、いたずらに悲観することはやめよう。未来は変えられる。未来を選ぶのは、私たちである。」と示唆に富む記述がなされています。

## 登米市出生数

平成26年6月12日現在

	迫	登米	東和	中田	豊里	米山	石越	南方	津山	合計
平成16年	206	34	42	137	65	81	39	69	32	705
平成17年度	199	38	33	117	45	80	39	62	23	638
平成18年度	191	41	28	149	47	80	33	68	22	659
平成19年度	174	36	38	123	57	81	24	73	27	633
平成20年度	200	18	28	120	46	67	33	73	18	603
平成21年度	198	36	30	113	41	74	31	78	20	621
平成22年度	177	29	37	124	56	70	36	78	21	626
平成23年度	200	31	32	109	51	60	25	50	17	575
平成24年度	182	39	32	118	49	59	29	70	17	595
平成25年度	189	22	31	90	48	59	25	60	18	542

平成16年は、人口統計  
以後「母子保健関係統計」から



### 3 石森地区の課題

石森地域づくり行動計画に当たり、平成26年4月から10月までの7か月間、石森地区内の行政区長、地域づくり計画委員、文化部会、女性部会、女性講座、映画「ふるさとがえり」上映会時の皆さん、石森ふれあいセンターの窓口でご協力を頂いた住民の皆さんなど、186人以上の方々から、「アンケート」の回答により、ご意見や要望などを頂きました。

(1) アンケート結果 課題・問題点 137件  
地域の資源（良いところ）など、4件 (合計 141件)

(2) アンケート結果の内訳 (100.0%)

- ・うるおい・ゆとり（生活・環境美化・住環境・景観・道路など） 34.3%
- ・ふれあい・やすらぎ  
（教育・スポーツ・文化・保健・福祉・安全など） 32.9%
- ・協働（住民参加・コミュニティ・世代交流・つながり など） 13.9%
- ・活力（産業・観光・雇用・にぎわい・なりわい など） 7.3%
- ・その他 11.6%

(3) 石森地区の課題・問題点等（137件）の内、主なものを掲載しました。

① うるおい（生活・環境・美化） . . . . . 38件

- ・ 道路脇、歩道、水路等にゴミの不法投棄が多い。（4件）
- ・ リサイクルの分別等、ゴミ出しのマナー違反が多い。（4件）
- ・ 商店が無くなり、スーパーやコンビニもない。買い物ができない。（4件）
- ・ 歩道脇の雑草が伸びている。（2件）
- ・ 人口が減少している。
- ・ 空家があり、ハクビシン、タヌキ、キツネ等の棲家になっている。
- ・ 町並みが、次々と空地になっている。何か風情あるものに活用できないか。
- ・ 孫たちに伝えたい郷土料理を作りたい。
- ・ 高齢になってきているので、バランスのとれた食事が不可欠に。

② ゆとり（住環境・景観・道路） . . . . . 9件

- ・ 行政区内の狭い道路に、大型ダンプ等の進入が見られる。子どもたちが危険。（2件）
- ・ 住民バスの経路の見直しを望みたい。
- ・ 空家の再利用がしやすくなるような組織が必要である。
- ・ 宅地の整備を望みたい。

- ③ ふれあい（教育・スポーツ・文化）・・・・・・・・・・・・・・・・ 16件
- ・それぞれの趣味の活動（絵手紙、陶芸教室など）ができないか。（3件）
  - ・郷土の偉人に学ぶ。世界的に有名な人、すばらしい先輩が出ている。
  - ・人と人とのつながりが不足している。
  - ・若者が増え、集える場所が多くあればいい。
  - ・60～80代の方の、ふれあえる行事を持って欲しい。
  - ・コミュニティまつり、ふるスポ大会に出る人がいない。
  - ・石森地区の歴史を知るような機会があるといい。
- ④ やすらぎ（保健・福祉・安全）・・・・・・・・・・・・・・・・ 26件
- ・街路灯・防犯灯が少ない。夜道が暗い中を小中高生が歩いている。（5件）
  - ・安心して医療が受けられる産婦人科など、専門の病院が欲しい。（4件）
  - ・通学路、歩道の整備を望む。（3件）
  - ・石森地区内に、有料老人ホームなど、福祉施設があれば良いが。（2件）
  - ・ボケても安心して暮らせる地域づくりを。
  - ・小さい子どもを預けられる施設や病院があるといい。
  - ・食えることによって治せる病気があるのなら知りたい。
  - ・ディサービスとは、また違ったコミュニケーションの場があればいい。
- ⑤ 協働（住民参加・コミュニティ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 19件
- ・コミュニティまつりの出し物で困る。出る人がいない。（3件）
  - ・人がたくさん集まるような事業や、地域であって欲しい。（3件）
  - ・何の行事でも、毎回同じ人が出てくる。（2件）
  - ・新住民の行政区行事などへの参加が少ない。
  - ・年代を超えて知り合う機会や事業があるといい。
  - ・人と人との輪、つながりが少なくなった。
- ⑥ 活力（産業・観光・雇用）・・・・・・・・・・・・・・・・ 10件
- ・地元野菜を使った料理、もっと自給農産物を活用するよう。（2件）
  - ・若者の仕事の場、歳をとっても働ける場所の確保を。（2件）
  - ・農産物を利用した加工生産工場（6次産業化の会社）の設立を。
  - ・産地、加工を明記し、安心・安全な食べ物を。
  - ・石森地区に大型スーパーがあればいい。

## 第2章 地域づくり計画策定に係る活動経過並びに方向性

### 1 活動の経過

石森地区を「より居心地のよい、住みやすい地域にすることをめざそう!」と、計画の策定に向けて、次のような活動を行ってまいりました。

- 平成26年4月～10月まで（アンケートの実施）

石森ふれあいセンター窓口や、会議の席上で、ご協力を頂いた住民の皆さん186人以上の方々から、「アンケート」により、141件のご意見や要望などを頂きました。

- 平成26年6月21日 映画会「ふるさとがえり」上映

いつまでも、自分にとって「かけがえのない故郷 石森」になるように、この映画を通して「地域の未来を語り合うきっかけ」について一緒に考えてみませんか？と呼びかけ上映しました。

ずっと昔に築立った故郷、大切な家族や仲間たちとの思い出。「ふるさとがえり」は、そんなふるさとの面影が、心に鮮明に浮かび上がってくる映画です。

また、地域の絆や、つながり、「ふるさと、とは何か」を考えさせられる映画でした。



- 平成26年9月～平成27年2月、10回の作業部会（ワークショップ）を開催。

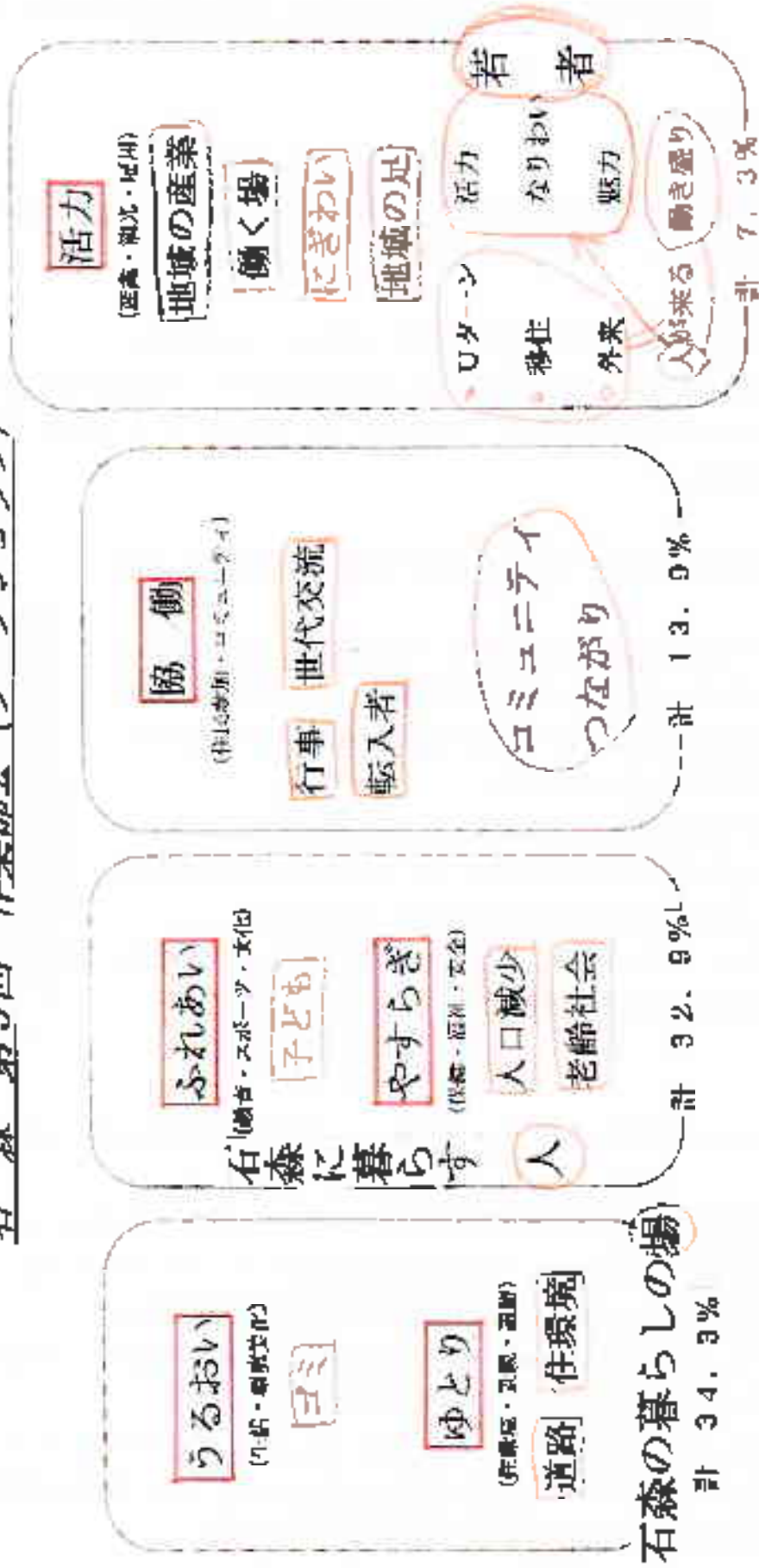
行政区長20人と、各行政区から選出された委員28人の、48人で構成された地域づくり計画委員会は、皆様から寄せられたアンケートをもとに、6つの班（後に4つの班編成へ）に分かれて、地域課題の整理を行いました。

まず、石森地区の課題として、「良い点、問題点（困っている点）」の「たな卸し」を行いました。（詳細は、資料編の6ページ）

また、「20△□年、石森のまちは、こんな風になっています」との未来予想を行い、「困っていたこと ⇒ こんな風になりました!」と、課題の解決に向けた熱い議論が交わされました。（詳細は、資料編の9ページ）

次に、石森の地域資源（いいところ、自慢できるところ）の「たな卸し」（詳細は、資料編の11ページ）を行い、石森に係る課題の分類、分析を行って、計画の具体化に向けた絞り込みを行いました。（次ページの別図-1のとおり）

石森 第3回 作業部会 (ワークショップ)



(数値はアンケート結果の割合)

## 2 地域づくりの方向性

会議を重ね、課題を検討していく中で、地域づくりに係る方向性として、石森地区のキャッチフレーズ（人々に関心を持たせるように工夫された印象の強い文句）は、次のように決まりました。

### ～創ろう 喜らしやすい にぎわいのある いしのもり～

（サブタイトル）

…日本で一番住みたい地域をめざして…

4つの各班のキャッチフレーズも決まりました。

（1）うるおい・ゆとり班

**生涯現役 幸福実感日本一 いしのもり**

（2）ふれあい・やすらぎ班

**あなたが主演 いしのもりパワーで まち再生**

（3）協働班

**心ふれあい 未来へ翔(はばた)く いしのもり**

（4）活力班

**みんなで創る 元気な いしのもり**

石森地区の「地域づくりの方向性」としては、登米市総合計画に盛り込まれている、6つのキーワード（うるおい、ゆとり、やすらぎ、ふれあい、協働、活力）を展開したまちづくりの基本方向に沿って、様々な事業を推進します。

### 第3章 石森地域づくり行動計画（地域づくりの施策）

この行動計画は、皆様から寄せられましたアンケートや、ワークショップでのたくさんのご意見をもとに、これから5年間の行動計画として、15項目に取りまとめました。

平成27年度から平成31年度までの間、「創ろう 暮らしやすい にぎわいのある いしのもり」をキャッチフレーズに、具体的な取り組みを進めてまいります。

#### — 行動計画一覧表（A3版）のとおり —



## 第4章 石森地域づくり行動計画の推進（今後の取り組み）

### 1 推進体制の構築

- (1) 石森地域づくり行動計画の実現をめざして、その課題解決に向けて取り組むため、(仮称)「石森地域づくり実践プロジェクト」を設置します。

構成員は、各行政区から選出されたプロジェクト員28人程度と、本会の趣旨に賛同する者で組織されます。

本行動計画に対する実践プロジェクトは、次の2つを置いて行います。

① (仮称) 暮らしの場活カプロジェクト

【活動分野】

(住環境、景観、道路、生活、環境美化、観光、雇用、産業 など)

② (仮称) 暮らし人つながりプロジェクト

【活動分野】

(保健、福祉、安全、教育、スポーツ、文化 など)

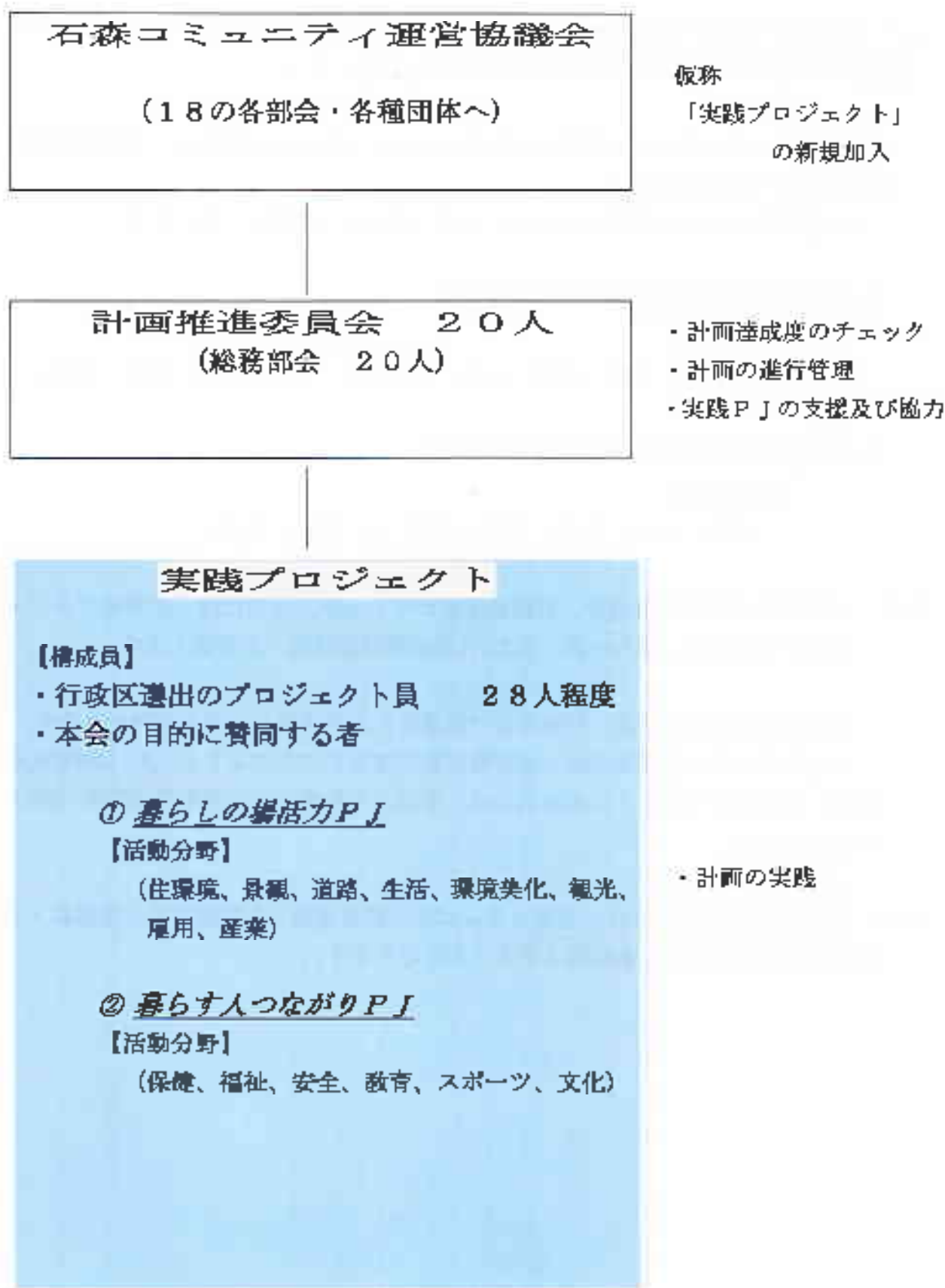
- (4) 本行動計画の進行管理や、計画達成度のチェック、さらには、本実践プロジェクトに対する支援や、協力を頂くため、「計画推進委員会」を設置します。

この計画推進委員会は、行政区長で構成される総務部会20人が当たります。

この行政区長の総務部会は、本行動計画の策定の中心でありました「計画策定委員会」の構成員であり、この委員会が、平成27年度から計画推進委員会へ移行するものです。

- (5) 本実践プロジェクトは、石森コミュニティ運営協議会を構成する、各部会・各種団体の一構成員として新規加入することになります。

## 推進体制のイメージ図





## ◎ おわりに

### ～ 石森地域づくり行動計画に携<sup>た</sup>わって ～

この一年間、石森地域づくり行動計画に携わった「地域づくり計画委員」皆様からの感想やコメント、本計画に期待する思いなどが寄せられました。

#### 【アドバイザー】

##### 特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラム理事

足立 千佳子 先生

#### — 計画づくりから始まる「わくわく・ドキドキ」—

地域づくりって何？役所にしてもらおうこと？

いえいえ、おらほのニコトはおらほでやるべ！

おらほだけで出来ないことは、役所や他の人たちの力ももらって、やってくべ！

・・・というのが、地域づくり行動計画なのです。

石森に暮らす一人ひとりが主人公となって幸せに暮らすために、コミュニティとしてどんな行動するか？ を1年かけてじっくりと話し合ってきました。

この計画からたくさんの希望の花が咲くことを期待しております。

#### 【地域づくり計画委員】

- 何か自分で出来ることを見つけ、仲間と協力し、行政の手を借りて実践する地域づくり。 蘆田 佐藤 啓
- 地元の名所旧跡が多いのに驚いた。多くの人と知り合いになれた。 蘆田 小野寺孝司
- 皆で知恵を出し、老人や若者が魅力を感じる地域づくりに向け頑張りたい。 本町畑中 熊谷政直
- 「人は幸せになるために生まれてきた」が地域づくりの核。人の出会いの場を増やそう！ 本町畑中 野塚數夫
- 毎回参加し、皆様の色々なご意見が出され楽しい時間を過ごすことが出来ました。ありがとう。 仲町 菅原早苗
- 「にぎわいのある町石森の復活を」皆でこの願いを共有し、知恵を出し合いましょう。 新町 瀬戸栄典
- 地域づくりの計画が、活気のある町になるよう望んでいる。 城内 洞野嘉男
- 地域づくりでは、多くの方々と出会えて良かった。実現できるよう頑張ります。 桑代 千葉直治

- 地域づくりは、転入してきた私にとって、石森を知り、人とふれあう楽しい時間でした。 茶畑 今野美喜
- 地域づくり計画委員の、皆様の願いが一つになった計画が出来た。実現に共に頑張ろう。 細谷 道邊義昭
- 顔をよせあい、話し合うことをみんなと感ずることが出来て良かった。 細谷 佐藤幸子
- 地域づくり計画を、コミュニティの一環として実現していく内容は、限られてくると思う。 加賀野一区 阪谷武蔵
- 自分が住んでいる地域のことを知るきっかけになり、毎回、参加するのが楽しみでした。 加賀野二区 佐藤 郁
- 地域づくりは、「ないものねだりより、あるもの探し」が大切だということがわかりました。 表 千葉涼子
- 地域づくり計画を推進し、みんなで支え合う、まちづくりが出来ると頑張りたい。 南加賀野 佐々木信一
- 若い人の考えで、実現に向けて頑張ります。 南町 千葉孝一
- 多様な団体ネットワークが必要、若い力と外部の人々と交流の場がもっとほしい。 南町 鈴木武彦
- 地域づくり計画も高齢者には10年先が限度、皆さんがつくった街を時代を生きて見たい。 新橋 佐々木金男

石森ふれあいセンターの東側出入り口付近に、「地域づくりの輪を広げましょう 石森コミュニティ運営協議会」との立て看板があります。皆さんは、前から気づいていたと思われませんが、このことから石森地区では、30年前の石森コミュニティの設立当初から、すでに「地域づくり」への関心が高かったことがわかります。

平成26年度において、石森地域づくり行動計画書が、皆さんの英知を結集して作り上げられました。さらに、登米市から、平成27年度事業の予算も確保して頂きましたので、地域づくりに向かい実践の時機が到来しました。

さあ、石森地域づくり行動計画に掲げられたキャッチフレーズをめざし、その取り組みを進めてまいりましょう！！

# 石巻地域づくりに行動計画！ 行動計画一役

(平成27年度～平成31年度)

～創ろう 暮らしやすい にぎわいのある いしのもり～

この行動計画は、石巻地区をより心地のよい、しあやましい地域にすることをめざして、多くの皆様の意見をもちに、石巻地域づくり推進委員会において、これからは年間

の行動計画として、以下の15項目に努力をいたします。  
 平成27年度から、「創ろう 暮らしやすい にぎわいのある いしのもり」をキャッチフレーズに、具体的な取り組みを進めてまいります。

…日本で一帯住みやすい地域をめざして…

区分	種別	プロジェクト	担い手			進捗時期			内容	
			個人	行政区	コミュニティ	地区内	1～3年度	3～5年度		6年度
(1)のキャッチフレーズ) <b>生涯現役 幸福実現日本ー いしのもり</b>										
暮らしの場 （暮らしの場）	生活・福祉・子育て・高齢者・障がい者・外国人・外国人労働者	1	環境改善	○	○	○	○	○	○	ゴミ焼却所の当番制、ゴミに関する関係合、漁業協会の共同防除(ハエ・防臭)、空家対策、東地の整備
		2	交通関係の改善	○	○	○	○	○	○	バスルートの新設、資料延長バスの実現、道筋改善の要望、町元灯台園(運動安全な歩道)の要望
		3	商店街活性化			○	○	○	○	移動スーパーの需要、佐藤道五郎村の開村
		4	空家対策		○	○	○	○	○	空家を目にしたグループホーム、シェアハウスの活用
(2)のキャッチフレーズ) <b>みんなで創る 元気を いしのもり</b>										
活力 （にぎわい）	観光・文化・スポーツ・健康・福祉・子育て・外国人労働者	13	豊かな集落	○			○	○	○	地元のみ、野菜、果物等の生産、加工、販売、農産物の自然体験、食農即の体験
		14	人口減少対策				○	○	○	働く場の確保(企業誘致、農産加工場の建設、大型スーパーの開業等)
		15	観光の促進		○	○	○	○	○	石ノ森直太郎記念館、洋石等の観光PR、土産になるような特産物の開発、販路の促進
(3)のキャッチフレーズ) <b>あなたが生徒 いしのもりパワーで まち再生</b>										
暮らしやすい （暮らしやすい）	教育・子育て・福祉・高齢者・障がい者・外国人労働者	5	老人子ども いきいき		○	○	○	○	○	交流プラザでゴルフ大会、高齢者との工夫・陶芸教室、高齢者の料理・軽運動・絵手紙等の趣味活動
		6	医療介護施設等の充実				○	○	○	高齢人材の活用、介護施設等の建設等に配慮、運用活動
		7	施設活用				○	○	○	ふれあいセンター、柏崎港の活用、開館、要援活動
		8	石巻の歴史を学ぶ				○	○	○	石巻の歴史を知り、利用し、主因から人脈の
		9	子育て応援		○	○	○	○	○	柏崎港との連携(健康増進等委員、社会福祉多量等)
(4)のキャッチフレーズ) <b>心ほれあい 未来へつく いしのもり</b>										
つながり （つながり）	コミュニティ・市民・事業者・外国人労働者	10	心ふれあう仲間づくり	○	○	○	○	○	○	コミュニティ祭、手作り・音楽等の各種ふれあい講座
		11	スポーツで地域力向上	○	○	○	○	○	○	バレーボール、ソフトボール、グラウンドゴルフ、バタック、ユニカール、運動会等の充実
		12	相互扶助社会の育成、向上	○	○	○	○	○	○	○

石巻コミュニティ運営協議会

暮らしの場活力PJ

暮らしやすいつながりPJ

## 【 資 料 編 】

1. 石森地域づくり行動計画策定に係る活動経過	1
2. 住民アンケート用紙（アンケートにご協力ください。）	2
3. 石森地域づくり計画委員会設置要綱	3
4. 石森地域づくり行動計画の策定体制図	5
5. 9/10開催、第1回作業部会（ワークショップ）の結果	6
6. 9/30開催、第2回作業部会（ワークショップ）の結果	9
7. 10/9開催、第3回作業部会（ワークショップ）の結果	11
8. （仮称）「石森地域づくり実践プロジェクト」設置要綱	13
9. 石森 行政区域図	15
10. 石森地域づくり計画委員会 名簿	16

## 石森地域づくり行動計画策定に係る活動経過

年 月	行 事	備 考
平成26年 4月～	アンケートの実施(計26,4月～10月) (課題・問題点137件、良いところ4件)	コミュニティ文化部会・女性部会 行政区長、地域づくり計画委員、 映画、窓口など、186人以上
5月	20日 地域づくり計画策定交付金申請 22日 〃 交付決定 27日 〃 交付請求	担当課 企画部 市民活動支援課 市民協働推進係
6月	5日 事務局会議 21日 映画会「ふるさとがえり」上映 26日 総務部会	・課題の抽出 (1) アンケート結果から (2) 各行政区から
7月	3日 事務局会議 24日 総務部会 29日 第1回地域づくり計画委員会 29日 先進事例研修会(45人出席)	・地域づくり計画委員の選出 (各行政区2人以上で45人) 総務部会17人、行政区選出28人
8月	21日 先進地視察研修(26人出席) 28日 総務部会	・湯沢市岩崎地区自治組織を研修 ・作業部会(6班編成)
9月	10日 第1回ワークショップ(36人) 30日 第2回ワークショップ(34人)	・課題出し
10月	9日 第3回ワークショップ(33人) 27日 第4回ワークショップ(34人)	・石森の地域資源(いいところ、 自慢できるところ)の「たな卸し」
11月	13日 第5回ワークショップ(30人) 27日 第6回ワークショップ(34人)	・石森に係る課題の分類、分析(整 理・検討)⇒絞り込み ・計画の具体化へ向け絞り込み
12月	11日 第7回ワークショップ(班長・ 副班長等:15人) 19日 第8回ワークショップ(班長・ 副班長等:13人)	・計画の具体化へ向け絞り込み ・行動計画の素案作成
平成27年 1月	13日 第9回ワークショップ(全体で の作業部会:31人) 21日 第10回ワークショップ(班長・ 副班長会議:15人)	・行動計画の素案策定 ・計画のキャッチフレーズの策定 ・地域づくり計画の取りまとめ
2月	12日 計画策定委員会(総務部会) 18人 27日 石森地域づくり計画報告会39人	・地域づくり計画の最終確認 ・石森地域づくり計画 
3月	石森地域づくり行動計画書の全戸配付	
4月	25日 地域づくり計画推進委員会設置 地域づくり実践プロジェクトの 設置へ(石森コミュニティ総会時)	・石森地域づくり行動計画に基 づき、実践PJスタートへ

# アンケートにご協力ください!

石森コミュニティ運営協議会では、平成26年度に「石森地域づくり計画の策定」を行います。

これは、日頃皆さんが感じている「困ったな!」を解決し、石森地区をより居心地の良い、住みやすい地域にすることを目的としています。

つきましては、どんなことでも構いません、「こうしたらいいのに。」「こんなことがしたい。」「こんなもの、こんなところがあったらいいのに。」といった意見や要望などを聞かせてください。

石森コミュニティ運営協議会

1. 日常生活で、今一番関心のあることは何ですか。  
(衣・食・住どんなことでも構いません。)

2. 今、特に不便に思っていることや、地域に何か必要なものはありますか。

3. こんな事があったらいいな。こうなったらいいのにということはありませんか。

4. どんなことでも構いません、日頃感じていることを教えてください。

## 石森地域づくり計画委員会設置要綱

### (名 称)

第1条 本会は、「石森地域づくり計画委員会」という。

### (事務所)

第2条 本会の事務所は、石森ふれあいセンター内におく。

### (目 的)

第3条 本会は、登米市圏外のまちづくり指針（平成19年5月策定）並びに、登米市まちづくり基本条例（平成24年4月1日施行）に基づき、石森の地域住民が、地域の課題などを認識し合い、その解決に向けた地域の将来像としての「石森地域づくり計画」（以下「計画」という。）の策定を進め、地域への愛着や、安心して暮らせる住みよい地域づくりの実現をめざすことを目的とする。

### (事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 計画の策定
2. その他、目的達成のための事業

### (組 織)

第5条 本会は、行政区長並びに、各行政区から選出された本会の目的に賛同する石森地域住民の委員で構成する。

2. 本会には、行政区長20人で構成する計画策定委員会を設置する。
3. 本会には、行政区長17人並びに、各行政区から選出された委員28人で構成する作業部会を設置する。
4. 本会に、技術的助言を受けるため、アドバイザーを置くことができる。

### (任 期)

第6条 委員の任期は、委嘱の日から、平成27年3月31日までとする。

### (役 員)

第7条 本会に次の役員をおく。

- 石森地域づくり計画委員会会長 1人（石森コミュニティ運営協議会会長）  
地域づくり計画委員会副会長 2人（石森コミュニティ運営協議会副会長）  
地域づくり計画委員会総務部長 1人（石森コミュニティ運営協議会総務部長）

(作業班)

第8条 作業部会に、作業班をおき、委員はいずれかに所属する。作業班は、次の6班とする。

(登米市の6つのキーワードを屋開したまちづくりの基本方向に基づく)

- (1) うるおい班 (生活・環境・美化)
- (2) 活 力 班 (産業・観光)
- (3) やすらぎ班 (保健・福祉・安全)
- (4) ゆとり 班 (住環境・景観・道路)
- (5) ふれあい班 (教育・スポーツ・文化)
- (6) 協 働 班 (住民参加・コミュニティ)

2. 作業班には、委員の互選により、班長及び、副班長を置くものとする。

(その他)

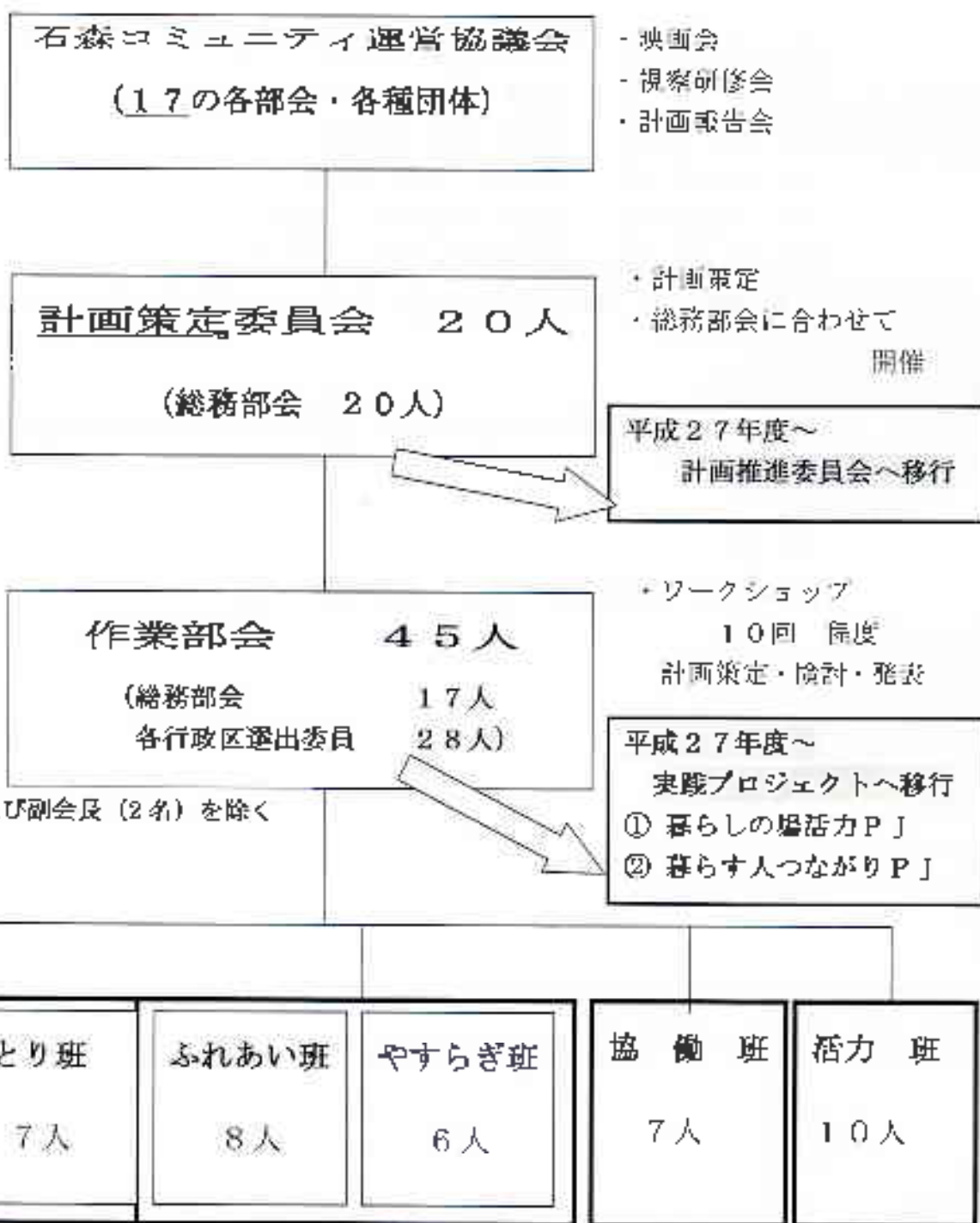
第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

この要綱は、平成26年7月29日より施行する。



# 地域づくり行動計画の策定体制図



各班から班長・副班長を選出

## 石森 第1回 作業部会(ワークショップ)

班名	良い点・問題点	タイトル	要 約
1 うるおい	良い点	俳人の産地 美田を残す 美人の産地 青春を謳歌 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の俳人に学ぶ・世界的に有名な人たちがいる。(石ノ森章太郎、片倉大佐、阿部醉枝、鈴木三守など)</li> <li>・田園風景が素晴らしい。また、江弘い作業班が残っている。</li> <li>・石森ふれあいセンターをはじめ美人が多い。</li> <li>・若い人で結婚しない人が多くなっている。結婚が遅い人が多いのでは。</li> <li>・志津川から入居した人たちが協力的。</li> </ul>
	困っている点	少子・高齢化 コミュニケーション 農業の現状 マナー違反 無関心 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが少くない。孫が少ない。高齢者の方が増えている。</li> <li>・老人と若い人との意思疎通。隣り近所のコミュニケーションが不足している。老人に住みよいまちづくりを。救急車がくると、近所の人が寄ってくる。</li> <li>・農家離れ。農地(業)を継いでくれる人がいない。</li> <li>・ゴミ出しのルールを守らない。ゴミの出し方マナーを守って欲しい。</li> <li>・行事、事業を計画しても来まらな。何の行事でも同じ人が出てくる。</li> <li>・空家対策。各学校のトイレを水洗にして欲しい。</li> </ul>
2 活力	良い点	文化施設あり マナーが良い 活力がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森章太郎記念館がある。</li> <li>・子ども、大人を含め、交通ルールが守られている。</li> <li>・若い世代が多い。果物の人たちのまとまりが良い。</li> </ul>
	困っている点	環境面 マナー 少子・高齢化 コミュニティ 交通、道踏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ屋敷がある。牛の臭いとハエ。家の中にコウモリが入ってきて困る。犬のフンなど、飼育のマナーが守られていない。ゴミ出しのマナーが守られていない。老人が多くなり、地域の環境美化活動ができなくなってきた。</li> <li>・公園での青少年のいたずらが多い。</li> <li>・家人が全部亡くなったため、空き家となり、隣り近所が迷惑している。子どもが少なくなり、活動がなくなってきた。</li> <li>・住民のコミュニケーション活動の関心がない人が多い。コミュニケーションが取れない。</li> <li>・病院に行くための交通の便が悪い。住宅地なので、道踏が悪い。事故も多い。歩道が壊れている。石ノ森章太郎記念館への道案内が不十分。</li> </ul>

3 やすらぎ	困っている点	ボケても安心 安全に帰宅 仲間になろう イケメン算果 自給自足？ 自然を見直そう 地域での役割 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に向かい、家族が困っている。</li> <li>・県道とそよかぜラインの交差点に信号機の設置を。防犯灯の整備。街路灯の整備を。</li> <li>・アパート住民との交流がない。人と会うことをすると目につくので、話題になる。地域の中で話し合いに参加する人が少ない。人と人との幅びつきが深い。(?)</li> <li>・若者がいない。</li> <li>・石森に店舗がない。特に、肉、魚など。身近な場所にスーパー(店)がない。</li> <li>・自然が豊かである。歩道脇の雑草の刈り取り。</li> <li>・ゴミの不法投棄。ゴミ出しルールを守らない。(ゴミ出し守り人とか、高齢者の仕事として。子どもも一緒に。)</li> <li>・所得の格差がある。</li> </ul>
4 ゆとり	良い点	自慢 コミュニティ 道路 少子化 住環境 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮き石をわざわざ見に来る人も多い。災害が少ない。石ノ森草太郎の生誕地。定められたことは守る。深刻な悩みがない。(そこそこの良環境)</li> <li>・コミュニケーションがとれない。石森打ち囃子保存会が休止状態。(笛吹きがいないから)</li> <li>・T字路にカーブミラーがない。狭い道路に大型ダンプの進入が見られ、子どもたちが危険。</li> <li>・とにかく子どもがいない。子どもが少ない。親の動機が不規則で、子育てが大変。(病院、保育所の問題あり)</li> <li>・空地の前の歩道が草だらけ。街路樹にアメリカシロヒトリが発生。公園に駐馬場がなく、路上駐車を多く。LEDの街灯は何となく暗く感じる。リサイクルの分別が悪い。犬のフンを片付けない飼い主がいる。庭木の剪定技を処理するのが大変。西田公園トイレの清掃を毎月1回実施している。</li> <li>・石森の町中に、フランス料理などが食べられるレストランがあったらいい。</li> </ul>
5 ふれあい	良い点	自慢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな石森ふれあいセンターがある。「農地、水」の事業のおかげで、県道の周辺がきれいになった。すばらしい先輩(草太郎さん)が出ている。登米市ではトップクラスの野菜の販売所(愛菜園)がある。</li> </ul>
困っている点	社会問題 コミュニティ 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少。職場が少ない。医療機関に問題あり。(利により非常に少ないところあり)</li> <li>・老人のお茶飲みが少ない。部落内の話し合いが少ない。酒場があってもいけない。</li> <li>・子ども、老人には危険なので、側溝の補修が必要だ。歩道等の除雪が問題だ。車の音。特に夜のバイクの音が気になる。歩道がなく、老人、子ども達が危険にさらされるのを見るに堪えない。道脇のところに、穴があつたり、へこんだり、ゆがんだりして、自転車、バイクの運転がこわい時がある。</li> </ul>	

6 店舗	良い点	地域の資源 見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>- お米が美味しい。食料が豊富だ。自然が多い。石ノ森蔵太郎の生家がある。</li> <li>- 一人暮らしの方とかへ、近隣への声掛けをしあっていること。小学校が近いこともあり、登校、下校時の児童たちのあいさつがGood</li> </ul>
	困っている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 参加して欲しい明かりが欲しい</li> <li>- 明かりいらず</li> <li>- コミュニケーション不足</li> <li>- 活気がない</li> <li>- 環境問題</li> <li>- モラル問題</li> <li>- 生活が大変</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 地域の行事に参加する人が少ない。地域への行事参加が、いつも同じ人ばかり。行事に出てくる人は、高齢者ばかり。</li> <li>- 街路灯が少ない。街路灯がない。</li> <li>- 夜中の12時以降は、街の街灯は消すこと。</li> <li>- 近所のコミュニケーションがとれない。隣り近所が知らない。</li> <li>- 子どもがいない。人が減って困っている。</li> <li>- ゴミ焼きの煙や臭いがひどい。リサイクルできないゴミが入っている。(業者が帰っていない)</li> <li>- 犬のフン、後始末をしつかりと。車の通過速度が速く、危ない。</li> <li>- 近くに商店が無くなった。交通の利便性が良くない。米価が下がって困った。</li> </ul>

## 石森 第2回 作業部会(ワークショップ)

プロジェクト	困っていたこと	こんな風になった	班名
	人口減少。高齢化。鉄道がない。空家が増えている。 置家難れ。仕事がない。働く場が少ない。 間店が少ない。収入が少ない。	子どもへ国から保育費、教育費が支給。100円バスの運行。共同住宅、共同生活ができるようになった。 農業、自然体験。企業による農業の大型経営。企業や会社が増えた。安定した農業、会社、商店がある。	うるおい班 うるおい班 うるおい班
住環境	空家、荒地が多くなり、ネズミ、タヌキの生息地となっている。	空家、荒地が整備され、住み良い町になった。	活力班
産業	少子・高齢化が進み、人口減少が続いている。	企業が進出され、若者が増え、コンビニ、スーパーが増えて住みよい町になった。	活力班
福祉	老人の運動施設が少ない。	パークゴルフ場ができ、人が集まり、老人の活力が出てきた。	活力班
ゴミ減少	ゴミの不法投棄、ゴミ出しルールを守らない。	ゴミ出しルールが守られた。不法投棄もなくなった。	やすらぎ班
親子孫同居	老人二人暮らし。子どもが別居していて孫の顔が見れずさびしい。⇒求ける。	親子・孫が食卓を囲んで楽しい。	やすらぎ班
楽しい老後	一人暮らしの高齢者が増えている。	グループホームみたいなので、入居しやすくなった。	やすらぎ班
買い物難民根絶	車の運転ができないと買い物に行くのが大変。	無料の住民バス(電気自動車)が市内を縦横無尽に走り、年を取っても買い物に困らなくなった。	ゆとり班
ペットのいる生活満喫	近くに犬を自由に運動させる場所がなかった。	犬を遊ばせる公園が整備され、道路のフンも少なくなかった。	ゆとり班
マンガ	石ノ森章太郎のような漫画家がいなくなった。	一年後、マンガ教室を開催。未采の漫画家が育ち、十年後、数名の漫画家が誕生。	ゆとり班
夏祭り	石森全体でできる夏祭りが無いように思われる。	数年後、夏祭りの盆踊りが開催。子どもからお年寄りまで、大勢の参加者で賑わった。	ゆとり班
歴史	石森の歴史をもっと知りたい。	歴史を調べ、石森の歴史を利用して、全国から大勢の人が来てもらえるようになり、活気あふれる素晴らしい町になった。	ゆとり班
	道路の悪い箇所の修繕ができていない。	災害になり、道路、水路が整備された。	ゆとり班

プロジェクト	困っていたこと	こんな風になった	班名
	小学校の道路橋断で、6か月前に事故あり。	ガードパイプにより防護された。	ゆとり班
	西田公園のトイレの床の清掃後の水はけ悪い。	ドリルで穴を開けると水はけが良くなる。	ゆとり班
	ゴミ集積所のゴミが、猫にゴミ袋を破られ散らばる。	ゴミ集積所に猫が進入できないよう、すき間を修理する。	ゆとり班
子どもにぎわいもう一度	子どもたちが、外で遊んでいる姿があまり見られぬ。	公園や、広場が整備された。	ふれあい班
行事活性化	行事に参加する人の頭ぶれが同じだ。	今まで参加しなかった人が、活動の輪の中に入ってきた。	ふれあい班
元氣な石森もう一度	街に活気がない。	道路が整備され、店もできた。	ふれあい班
異年齢交流	コミュニティ不足。	様々な年代の人が参加できるイベントが開催されるようになった。	協働班
空家対策	空家が増え、独居老人も増えている。	空家を利用して、グループホームやシェアハウスになった。	協働班
子育て応援	子どもが少ない。若者の定住が減った。	子育てしやすい石森に多くの人が移り住み、子どもが増えた。	協働班

## キーワード

人 ……人口減少 子ども 高齢社会 世代交流 転入者 行母

働く場…… 地域の産業

にぎわい……

地域の足 ……

住環境(うるおい)……道路 ゴミ

## 石 森 第 3 回 作 業 部 会 (ワークシヨップ)

タイトル	石 森 の 地 域 資 源 (よ い と こ ろ)	班 名
自然資源	風景、景色が良い(田園風景、野並み、屋敷橋え、栗駒山もきれいに見える)。新しく田んぼが整備され、美しい田園風景を残しやすくなった(作業がやりやすくなった)。野菜、米など、食糧の宝庫。野鳥がたくさんいる(白鳥、サギ、キジなど)。	うるおい班
人的資源	石森が生んだ偉人(新井兩窓)に学ぶ。協力して物産を作成する風潮。石森出身者(石ノ森章太郎さん、佐藤運さん)の記念館がある。石ノ森章太郎という古里の誇り。登米市で2番目に子どもが多い。	うるおい班
地域資源	ヨークベニマルのような大きなスーパーが出店しようとして計画されている。海岸部で生活していた人々が入居してきている。演歌歌手(彩華さん)の出身地。石森を盛り上げようとする「石若食」のような若者グループが存在する。安心して暮らせる登米地域である。道の駅(愛菜館)があって、新鮮な野菜や手作り食品が買える。夏祭り(加賀野ふれあい、石ノ森章太郎ふるさと記念館)で賑わっている。古典伝統芸能の能、舞踊、民謡、和紙、木工芸、など、地域の有名人、達人がいる。	うるおい班
公共施設	加賀野公園ができて、緑の樹木が数多く植樹され、集落の景観が大変きれいになった。	うるおい班
自然資源	水路に生き物(雷魚、ナマズ、ザリガニ)が多い。津波や洪水などの大きな災害がない。	ゆとり班
生活資源	蔵産物直売所(愛菜館)がある。砂肌、しょうゆで味付けした団子のようなものがあり、おいしい。はつとがうまい。	ゆとり班
観光資源	石ノ森章太郎ふるさと記念館がある。冬のイルミネーション(石ノ森ふるさと記念館、渡辺建設など)がきれい。石森の町内にある仮面ライダーやロボコンのオブジェが素晴らしい。加賀野公園の浮き石が見事だ。	ゆとり班
人的資源	石森の殿様、筑原家がある。能面師の佐藤松弘氏がいる。	ゆとり班
その他	ぐりにま高原駅に近く、仙台に通うことができる。大友克洋の母校(佐沼高校)が近くにある。	ゆとり班
自然	北上産地の朝日、栗駒山の夕日がきれい。自然が豊かで森が多い。自然があり、のどかた。四季の移り変わりが楽しめる田園風景が素晴らしいところ。星空がきれいに見える。坂が少ない。	活力班
観光	石ノ森ふるさと記念館がある。	活力班
生活	集落内に医者がいる。人口密度が低いので、ゆったり生活ができる。国道346号沿いで、交通の便が良い。	活力班

## 石森の地域資源(よいところ)

タイトル	内容	班名
自然資源	水路・排水路がきれい。井戸水が豊か。田んぼがきれい。メダカの生息地がある。昆虫・魚類が多い。比較的平坦地域である。自然が豊か。バツクに栗駒山があり景色が良い。集落の景観(夏川堤防からみる栗駒山)が美しい。	やすらぎ班
産業資源	農業がいい。産直センターの愛菜館がある。	やすらぎ班
人的資源	知的人材が多い。加賀野の神楽は歴史が長い。	やすらぎ班
生活資源	はつと(ずんだ、かぼちゃ、ゴマ)がうまい。加賀野公園の浮き石が見どころ。	やすらぎ班
歴史的資源	神明社に湧き井戸がある。このセンターの周辺は、かつてお茶を栽培していたところだ。石森小学校の裏山に、湧水が出る。名所、旧跡が結構ある。	ふれあい班
人的資源	田舎町だが、そこそこ人がいる。	ふれあい班
地域行事	石森ふれあいセンターは、グラウンドスポーツができる。サークル活動もできる。8月に毎年、夏祭りがあある。	ふれあい班
記念館	石ノ森章太郎記念館の存在が大きい。石森の町中に、石ノ森章太郎が描いた銅像がある。	ふれあい班
伝統芸能	人数は少ないが、石森小の運動会で「石森打ち囃子」が行われている。石森音頭があった。	ふれあい班
うまい! 石森	全国に誇るおいしい米の生産地(ひとめぼれ、ササニシキ)	ふれあい班
自然資源	北上川水系の水が豊富。気候が温暖で過ごしやすい。田園風景が素晴らしい。雪が少ない。かっこうが鳴く。	協働班
人的資源	歌人 阿部静枝、演歌歌手 彩華、画家 佐藤 達。	協働班
生活資源	米が美味しい。はつとが各家庭で作られている。病院が近い。	協働班
産業資源	豆腐屋。愛菜館。ピザ屋さんができた。「はつとん」のクッキーを売っているお菓子屋さんがあった。	協働班
歴史的資源	加賀野神楽がある。海蔵寺の敷地内に聖徳太子堂がある。	協働班
観光資源	石ノ森章太郎記念館がある。章太郎記念館の敷地内に、「たばこや」ができ、食事ができる。加賀野公園に、水で浮く石がある。	協働班
チャンス	インターネットでできる。光のページェント(石ノ森章太郎記念館、渡辺建設宅、南加賀野佐々木区長宅)が行われている。田園風景が素晴らしい。	協働班



## (仮称)「石森地域づくり実践プロジェクト」設置要綱(案)

### (名 称)

第1条 本会は、(仮称)「石森地域づくり実践プロジェクト」という。

### (事務所)

第2条 本会の事務所は、石森ふれあいセンター内におく。

### (目 的)

第3条 本会は、登米市まちづくり基本条例(平成24年4月1日施行)に基づき策定した、石森地域づくり行動計画の実現をめざし、「創ろう暮らしやすいにぎわいのあるいしのもり」をキャッチフレーズに、石森の地域住民等が、その課題解決に向けて取り組むことを目的とする。

### (事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 計画の具体化
- (2) その他、目的達成のための事業

### (組 織)

第5条 本会は、次に掲げるプロジェクト員で構成する。

- (1) 各行政区から選出されたプロジェクト員28人程度。
- (2) 本会の目的に賛同する者。
- (3) 本会に、(仮称)「暮らしの場活力プロジェクト」、並びに(仮称)「暮らし人つながりプロジェクト」の2つを置く。
- (4) 本会は、石森コミュニティ運営協議会の構成する会に加入するものとする。

### (活動分野)

第6条 本会の活動分野は、次のとおりとする。

- (1) (仮称)「暮らしの場活力プロジェクト」の活動は、住環境、景観、道路、生活、環境美化、観光、雇用、産業の分野とする。
- (2) (仮称)「暮らし人つながりプロジェクト」の活動は、保健、福祉、安全、教育、スポーツ、文化の分野とする。

(任 期)

第7条 本会のプロジェクト員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、行政区で欠員が生じた場合は、その行政区において補充するものとし、補充による任期は、前任者の残任期間とする。

(役 員)

第8条 本会に、リーダー1人及びサブリーダー2人をおく。

- 2 リーダー及びサブリーダーは、プロジェクト員の互選により選出する。
- 3 リーダーは、実践プロジェクトを代表し、会務を統理する。
- 4 サブリーダーは、リーダーを補佐し、リーダーに事故あるときは、その職務を代理する。

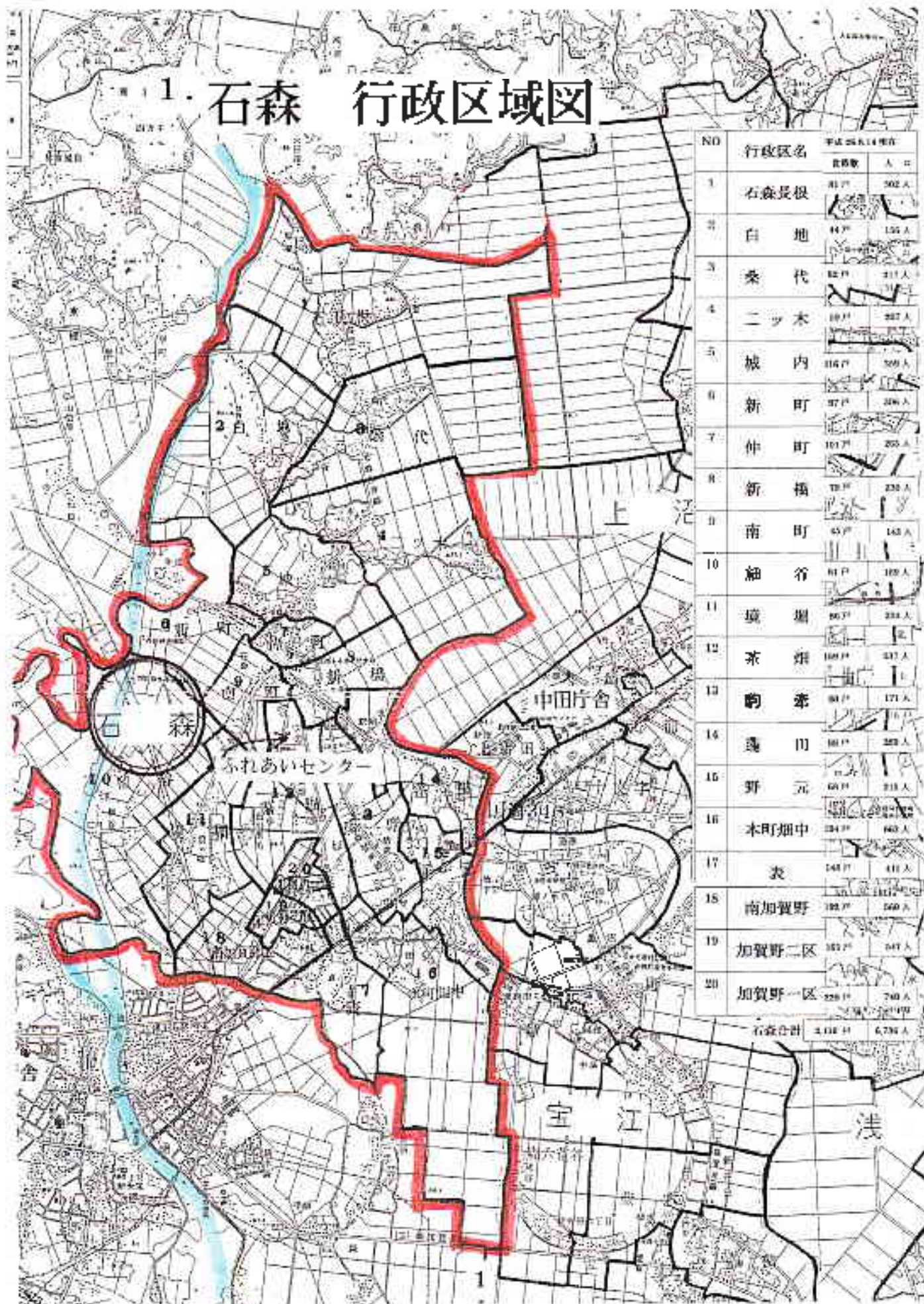
(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月 日より施行する。

# 1. 石森 行政区域図



NO	行政区名	平成25年1月現在	
		面積	人口
1	石森長根	81.77	502人
2	白地	44.77	155人
3	桑代	82.77	211人
4	ニッ木	10.77	207人
5	城内	114.77	509人
6	新町	37.77	286人
7	仲町	101.77	255人
8	新橋	73.77	230人
9	南町	45.77	143人
10	細谷	61.77	189人
11	境畑	66.77	204人
12	茶畑	108.77	237人
13	駒牽	84.77	171人
14	邊田	66.77	203人
15	野元	66.77	218人
16	本町畑中	134.77	463人
17	表	148.77	411人
18	南加賀野	102.77	549人
19	加賀野二区	102.77	547人
20	加賀野一区	220.77	740人
石森合計		2,132.34	6,736人

# 石森地域づくり計画委員会

会長 熊谷 賢  
副会長 佐々木 信一 渡辺 義昭

## 石森地域づくり計画班委員（作業部会）名簿

番号	班名	行政区	氏名	区分	
1	うるおい (7人)  生活・環境美化 など	蓬田	(㊟) 佐藤 啓	区 長	
		駒牽	(㊟) 佐々木 哲治	区 長	
		城内	清野 嘉男	行政区選出	
		二ツ木	佐藤 正志郎	区 長	
		長根	工藤 秀樹	行政区選出	
		表	堀内 壽明	区 長	
	ゆとり (7人)  住環境・景観・ 道路など	南新	町	(㊟) 千葉 守	区 長
		城内		小野寺 徹彌	区 長
		野元		千葉 茂	行政区選出
		本町畑中		野家 敬夫	行政区選出
		桑代		千葉 恵治	行政区選出
		境畑		万里崎 政夫	区 長
		加賀野二		佐藤 郁	行政区選出
		2	ふれあい (8人)  教育・スポーツ・ 文化など	蓬田	
新町	(㊟) 瀬戸 栄典			行政区選出	
白地				千葉 俊男	区 長
桑代				春日 秋子	行政区選出
細谷				伊藤 勉	行政区選出
南新	町			千葉 孝一	区 長
新橋				佐々木 金男	行政区選出
やすらぎ (6人)  保健・福祉・安全 など	茶畑			今野 美喜	行政区選出
	野元			千葉 哲郎	区 長
	本町畑中		(㊟) 熊谷 政憲	区 長	
	細谷		(㊟) 佐藤 幸子	行政区選出	
	加賀野一			野家 聡	行政区選出
	境畑			佐藤 和夫	行政区選出
	新橋			阿部 明	行政区選出
3	働 (7人)  住民参加・ コミュニティなど	野元		千葉 幸也	行政区選出
		仲町	(㊟) 菅原 早苗	行政区選出	
		長根		佐藤 節郎	区 長
		茶畑		佐々木 忠規	区 長
		表	(㊟) 千葉 淳子	行政区選出	
		南加賀野		小畑 真由美	行政区選出
		新橋	(㊟) 菅原 政崇	区 長	
4	活 力 (10人)  産業・観光・雇用 など	蓬田	(㊟) 小野寺 孝司	行政区選出	
		駒牽		菅原 正吾	行政区選出
		仲町		伊東 慎助	行政区選出
		白地		伊藤 秀夫	行政区選出
		二ツ木		富士原 雄	行政区選出
		長根		阿部 幹男	行政区選出
		境畑		万里崎 正行	行政区選出
		加賀野一	(㊟) 熊谷 武義	区 長	
		加賀野二		須藤 健治	区 長
		桑代		合 信郎	区 長

(台 計 45人 ㊟は区長 (㊟は副区長))

### アドバイザー

特定非営利活動法人まちづくりフォーラム理事 足立千佳子 先生

### 計画策定支援チーム

企画部市民活動支援課 佐藤英雄課長補佐、星名輝紀主査、後藤由美子主査  
甲田総合支所 市民課 浅野孝子主査

### 事務局

センター長 菅原好男  
社会教育主事 菅原浩子  
事務員 進藤由里



石森地域づくり計画事業報告書

平成27年3月

発行	石森コミュニティ運営協議会
策定	石森地域づくり委員会・作業部会
事業支援	登米市企画部市民活動支援課 中田総合支所市民課